

■科目名			
肢体不自由児の教育総論 Educating Children with Physical Disabilities			
■開設年度	■区分	■学科名	■分類
2021	専修専門科目	特別支援教育	
■単位数	■履修期	■履修条件	■開講期
2	6期		後
■担当教員			
木船 憲幸			
■代表教員名及び連絡先等			
非常勤講師による集中講義のため、肥後祥治が窓口を担当する (higosho@edu.kagoshima-u.ac.jp)			
■オフィスアワー			
非常勤講師による集中講義のため、設定できないが、集中講義中休息时间等に対応をおこなう。			
■講義の概要（目的・内容・方法）			
肢体不自由児教育の教育課程及び肢体不自由の起因疾患の中でも出現率の高い脳性まひ児の姿勢運動の指導法を取りあげる。肢体不自由児教育の教育課程については、自立活動や個別の教育支援計画等を学び、脳性まひの指導法については神経生理学的症状に対応した姿勢運動発達指導法を修得することが授業の目標である。 全15回を対面形式での授業で実施予定である。			
■授業の到達目標及びテーマ			
1. 肢体不自由児の教育課程の特徴について説明ができる。 2. 肢体不自由児の心理・生理・病理学的な基盤について説明ができる。 3. 肢体不自由児の指導法の概要を理解する。 4. 自立活動における個別の指導計画を立案できる			
■授業計画			
以下の全15回を対面形式での授業（集中講義）で実施予定であるが、感染症やその他の影響により変更する場合がある。			
1. 肢体不自由児教育の教育課程の編成と配慮事項 2. 肢体不自由児教育の教育課程と自立活動 3. 肢体不自由児教育の教育課程と個別の教育支援計画 4. 神経系の成熟・姿勢反射反応・姿勢運動発達の関係 5. 姿勢運動発達の実際 6. 姿勢反射反応の実際（原始反射） 7. 姿勢反射反応の実際（立ち直り反応） 8. 姿勢反射反応の実際（平衡反応） 9. 姿勢運動発達支援の原則 10. 脳性まひ児の臥位レベルの支援の実際と姿勢反射反応 11. 脳性まひ児の座位レベルの支援の実際と姿勢反射反応 12. 脳性まひ児の立位レベルの支援の実際と姿勢反射反応 13. 脳性まひ児の歩行の支援と姿勢反射反応 14. 脳性まひ児の姿勢と嚥下・摂食 15. まとめ			
■授業外学習（予習・復習）			
連日の集中講義であるためその日その日の学習内容を帰宅後復習し、だされた課題に取り組んで翌日の授業授業に参加する事。			
■受講要件			
特別支援学校教員免許取得予定のもの			
■成績の評価基準			
授業における質問、討論などと試験を総合的に評価する。			
■教科書・参考書			
脳性まひ児の発達支援. 木船憲幸. 北大路書房.			
■教師としての資質能力に関するチェック項目			
9. 学習者の心理・発達に関する理解			

【C学習者理解】子どもの発達や心理など，子ども理解のための基礎的な知識を身に付けており，それらを生かして子どもの発達を分析することができる

11. 特別支援教育に関する理解

【C学習者理解】特別支援教育に関する基本的な知識を身に付けており，それを生かした具体的な指導・支援の在り方を構想することができる

アクティブ・ラーニング

その他；

アクティブ・ラーニング（その他）

相互に体を支える経験をしながらの指導の実習

アクティブ・ラーニング(授業回数)

4／15回

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

以下の全15回を対面形式での授業（集中講義）で実施予定であるが、感染症やその他の影響により変更する場合がある。